



足利清風高PTA新聞

発行者

〒326-0846 足利市山下町2110
栃木県立足利清風高等学校

PTA責任者
PTA会長 邊見徹二

印刷所
有限会社 ふたば印刷



豚汁配布



飲み物配布

PTA会員の皆様には日頃より、本校の教育活動に深いご理解と厚いご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本年度のPTA活動は、邊見新会長の下、本部役員の方々を中心に活発に行われて参りました。新しい取り組みとして、会員の皆様のご要望に応え、九月六日(土)に、保護者・生徒対象の進学説明会を開催していただきました。説明会には、保護者七十七名、生徒八十八名と、これまでの進路見学会の数倍にも上る参加者がありました。

また、十月十五日(水)には、講師に(株)打つ手は無限・代表取締役社長 日本メンタルカウンセラーイング協会・理事長 鈴木 稔先生をお



学校長 平栗 勝

「親であること」への感謝

招きして、全校生徒と保護者、教職員を対象に教育講演会を開催していただきました。先生は、保護者も教職員も、子どもと関わる大人たちは、子どもに感謝の気持ちを持たなければならぬと力説されました。

私も、三十年近く前、初めて子宝に恵まれた時の感動を思い出すとともに、やはりその頃読んだある本のことを思い出しました。少しだけ、その紹介をしたいと思います。

題名は、『海軍主計大尉小泉信吉』。作者である小泉信三(当時慶應義塾塾長)が、戦死した長男・小泉信吉の追悼のために書いた手記です。その中に、父・信三が出征直前の息子・信吉に手渡した手紙のことが記されています。

「吾々両親は、完全に君に満足し、君をわが子とすることを何よりも誇りとしている。僕は若し生まれ替わって妻を扱べといわれ、幾度でも君のお母様を扱ふ。同様に、若しわが子を扱ふといふことが出来るものなら、吾々二人は必ず君を扱ふ。人の子として両親にこう言わせるより以上の孝行はない。君はなお父母に孝養を尽くしたいと思っているかも知れないが、吾々夫婦は、今日までの二十四年の間に、凡そ人の親として享け得る限りの幸福は既に享けた。親に対し、妹に対し、なお仕残したことがあると思つてはならぬ。今日特にこのことを君に言つて置く。

《後略》」

深く悲しい親の愛情、改めて読んでみて、余計な感想を述べることがはばかられる思いがしました。



PTA会長 邊見徹二

「子供達に自立を」

会員の皆様には日頃から多大なるご支援をいただきまして心からお礼申し上げます。

さて近頃のマスコミ報道やインターネット情報に目を向けますと、格差社会が生み出したひずみ故か、心を病んだ若者による無差別殺人等、暗いニュースが後を絶ちません。また消費税増税、円安による物価高それによるインフレなど将来のある子供達を取り巻く状況は、まさに暗雲が漂っています。

先日の、PTA主催の心理学者の鈴木稔氏の講演の中で、いつの時代も子供達は大人の背中を見て育つ、

親や教師が自ら子供達に実践しないで説得力があるはずがない、との教えをいただきました。子供の教育をしていくのに、勇気づけはしてないか(過保護、過干渉、放任、虐待)大人自らが勇気づけをしているか(尊敬、共感、勇気、感謝)。そんな姿を見て子供達は夢を持ち自立していく力を身につけて経験していくのです。子供達の未来は、我々大人にかかっていると云つても過言ではありません。

どうか我々大人が実践し有意義なものへと導くことを、大人が真剣に関わると子供たちは確実に変わるの

です。かつてビートルズは不良が聴く音楽と大人達に言われました。しかしそのビートルズを受け入れたのは若者の感性でした。その歌詞が今では教科書に載るまでになったのは、その時代時代の若者の熱き心が冷めずに続いたからです。いつの時代も若者の熱い感性と気持ちが世の中を変え時代を動かす力になると言うことです。

ケネディーやクリントンが尊敬する日本人である上杉鷹山の格言を紹介します。

「なせば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」

皆様におかれましては、今後とも子供達並びに清風高校発展のために変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

『可能性を信じて』

第一学年

第一学年主任 橋本あかね

本校が足利清風高校として発足してから八年、八期生をお預かりして一年が終わろうとしています。この一年で心も体も一回りも二回りも大きく成長しました。ご家庭ではいかがでしょうか。

山の一年間の変化を表す言葉に「山笑う・山滴る・山粧う・山眠る」という言葉があります。冬の鎮まり落ち着いた印象から一変して木々が芽吹き、草は萌えだし、山は新しい命で満たされ山全体が笑っているように見える春、みずみずしい青葉で満たされる夏、晩秋のすんだ空気の中で、山が紅葉に彩られている秋。季節が変わるたびにいつも思い出す言葉です。生徒達の一年もこの言葉で表されるように変化してきました。

合格を勝ち取って希望と期待と不安を胸に入學した四月、あせをかきかき高校の勉強に必死に食らいついた夏、少しずつ努力の成果が現れてきて自分色に粧うことが出来た秋、自分のペースを掴み二年生の良いスタートのために力をためている今、大きく成長した姿がここにあります。

1 学年担任



1組 橋本先生 2組 船田先生 3組 古谷先生 4組 小瀧先生 5組 鈴木先生

さて、一年間を振り返ってみると、五月のデイズニースリーの遠足に始まり、六月にはクラスマッチで上級生の力に圧倒されて高校生としての洗礼をうけ、七、十月には普通救命講習で救急処置の仕方を学び、十月には保育体験学習で子育ての難しさ、楽しさを学び、そして五つの色に分かれて団結力を試された体育祭、多くの行事を経て、クラスの間も深まってきました。

いよいよ一年生になりました。高校生活はあつという間に過ぎ去っていくとよく言われます。実りある物を一つでも二つでも掴み、残りの二年間を有意義に過ごしてもらいたいと担任、副担任、学年団一丸となって応援していきます。これからの保護者の皆様にはご理解、ご協力、ご支援をお願いいたします。一年間ありがとうございました。

LOW-LY 7 QUEEN

第二学年

第二学年主任 染宮 唯二



デイズニースー



二学期の始業式、①学力の向上（これまで以上に勉強を・授業を真剣に・家庭学習をしっかり）②学校行事に主体的に取り組む③自分自身を信じる、校長先生よりポイントとなる言葉を頂きました。

学校行事については、一学期、普通科は高齢者福祉施設体験（三日間）、商業・情報処理科はインターンシップ（三日間・台風の影響で最終日が中止）が終了し、「挨拶」や「コミュニケーション」、「人と人の繋がり」の大切な

ことを学び、参加した生徒の顔つきは間違いなく変わりました。二学期は、クラスTシャツを作成し、みんなが「笑顔」で健闘を讃え合った『体育祭』（十月）に始まり、この学年最大の行事である『修学旅行』（十月）では、最高の天気にも恵まれ、「海やジンベイザメを見て感動し、平和学習で命の大切さを学び涙し、班別自主研修で絆を深め合い」誰もが素晴らしい四日間を体験することができました。（病気や大きな怪我をして保健室を利用する生徒が一人もいなかった「修学旅行」は経験したことがありませんでした。）『マラソン大会』（十一月）では、自分の限界に挑戦し全員が完走することができました。

学力の向上については、授業や家庭学習を大切にすることとは勿論、多くの生徒が高度な資格取得に挑戦し「切磋琢磨」しています。思うような結果にならなかったとしても、それまで努力した過程が必ず「自信」に繋がるはずで

四月にはいよいよ三年生に進級します。進路決定に向けて『自信』を持って臨めるように、担任一同、生徒の夢の実現のために精一杯頑張りたいと思っています。これからも宜しくお願い致します。

2 学年担任



1組 桑山先生 2組 富田先生 3組 染宮先生 4組 新築先生 5組 桑川先生



修学旅行

『三年間よく頑張った』

第三学年

第三学年主任 川村 勝則

六期生として入學して三年が経ちました。各担任は、クラスの子と格闘の毎日でした。時には、一緒に進路を悩み、一緒に汗をかき、一緒に涙を流したのが昨日のようで